

Notebook LM で深める“対話型 AI 活用”実践ガイド

— ゆるやかな場から、深い問いへ —

1. はじめに：なぜ「Notebook LM」なのか？

生成 AI が急速に普及し、業務効率化や知識生産のあり方が変わりつつある今、私たちは AI を「使う」だけでなく、「どのように使うか」が問われる段階に入りました。Notebook LM は、Google が提供する「ノート型の生成 AI」であり、従来のチャット形式の AI とは異なり、ユーザーがまとめた情報に基づいた出力や、文脈保持力の高い応答を特徴としています。

ChatGPT などの生成 AI と比較すると、Notebook LM は「アウトライナー」としての機能や、文書ごとの情報管理、回答の根拠提示など、構造的な思考支援に優れており、ビジネスや研究、教育の分野でも注目を集めつつあります。その魅力は、「知識の一方通行な獲得」ではなく、「対話と構造化による共創」にあるのです。

2. 勉強会の実践と学び

2025 年 7 月に開催された「ゆっくり AI×ファシリテーション勉強会」第 11 回では、Notebook LM をテーマに、実際に画面を共有しながらのデモと参加者同士の対話を通じて、機能理解だけでなく、新たな気づきや疑問が生まれました。

特に印象的だったのは、有償版と無償版で UI や機能に差異があることに対する驚きの声や、共有まわりの使い勝手に対する課題意識です。Notebook LM に詳しいとされる参加者自身が「知らなかった」と感じる場面が生まれ、「実演を見て、話して、質問する」という構成の力をあらためて実感する機会となりました。

また、「普段は画面オフで耳だけ参加」の方が顔出しで発言した場面では、ゆるやかな関係性の中にも、安心感と主体性が育まれている様子が見て取れました。

3. Notebook LM を活かす実践ヒント

Notebook LM の特長を活かすためには、単なる「AI への質問」ではなく、「ノートの設計思想」を持つことが重要です。具体的には、以下のような工夫が有効です：

- **文書のインポートと構造化**
長文 PDF や Web 記事などを一括でインポートし、章ごと・テーマごとに整理しておくことで、質問時の文脈が明確になり、AI の出力の精度が高まります。
- **複数ノートの並行利用**
テーマ別・プロジェクト別にノートに分けて管理し、必要に応じて引用しながら活用することで、情報の迷子を防ぎ、知的整理力が高まります。
- **共有とコラボレーション**
他者とノートを共有する際は、エクスポート形式の違いや、閲覧権限の制約に注意が必要です。例えば一部機能が有償プラン限定であるなど、事前の確認が必要になります。

Notebook LM は「ひとりで使うツール」から、「共に探究するための場」へと進化しつつあります。

4. Notebook LM が示す AI との新しい関係

Notebook LM を使っていると、単に情報をまとめるだけでなく、「問い」をつくる過程そのものが洗練されていく実感があります。これは、AI がただの道具ではなく、「思考の外部パートナー」として振る舞っているからこそ可能な体験です。

従来のツールは「効率的に答えを出す」ためのものでしたが、Notebook LM では「どんな問いを立てるか」「どう構造化するか」が鍵となり、そこに人間側のファシリテーション力が問われます。これはまさに、生成 AI 時代におけるファシリテーターの役割が「場を開き、問いを導く」ことにシフトしていることを象徴しています。

加えて、「自分は知っているつもりだったけど、他者との対話でわからないことに気づいた」という場面に象徴されるように、AI を活用した学びは、内省と共有の循環を生み出します。

5. 問いとともに歩むために

私たちは AI と共に、どんな問いを立て、どんな未来を描こうとしているのでしょうか。Notebook LM は、その問いを内側から引き出してくれるツールでもあります。

単に「わかりやすくなる」「楽になる」という効率化ではなく、「まだ言語化されていないものに気づく」「考え続けるための仮説をもらう」ために AI をどう使うか——。

そして、あなたにとって「良い問い」とは何でしょうか？
その問いが、新しい学びの扉を開く鍵になるかもしれません。

※ご留意ください

本資料は、Creative Guild で開催した勉強会の内容をもとに、AI（ChatGPT）を活用して自動生成されたものです。内容の正確性や完全性については保証できない点をご理解ください。ご自身の判断や追加の調査とあわせてご活用いただければ幸いです。Creative Guild は本資料の内容に対する責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。